

# ちょっと ブレイク しませんか?

## 第 43<sup>rd</sup> 回 2020年1月「きつとうまいく」



インソップ寓話集に「造船所のインソップ」と題する小話がある。

ある時、寓話作家のインソップは暇つぶしに造船所へ入って行った。船大工たちが彼をからかって、言い返さずにはいられないように仕向けたので、インソップはこんな話をした。その昔、カオスと水が生じたが、ゼウスは土の要素をも出現させたいと思って、三度海の水を呑みこむよう<sup>ガイア</sup>大地を促した。大地は仕事にかかると、まず最初に山々を現し、再び呑みこんで平野をも露出させた。「もしも大地が三度目も水を呑み干すことを決心すれば、お前たちの技術は何の役にも立たぬものになるのだぜ」

大卒後十年、ファルハーンとラージュは、がり勉秀才のチャトルに呼び出される。その日は天才ランチャーとチャトルが「十年後の今日に母校へ戻り、どちらがより成功したかを見せ合う」賭けをした日だった。印度名門工科大学ICE(Imperial College of Engineering)に入学したファルハーンとラージュとランチャーの3人は親友になる。学長が求める成果主義教育にランチャーは真っ向から反抗。落ちこぼれの二人(ラージュとファルハーン)に加えて、学長の雑役係の少年マンモーhanと学長の次女のピアもランチャーに魅了されていた。ランチャーは常にトップの成績だがファルハーンとラージュは最下位だ。「どうして成績が上がらない?」と2人が問うと、「ファルハーンは工学ではなく写真に魅せられながらもそれをひた隠しにしているから」、「ラージュは臆病から神頼みになり勉強に集中できないからだ」とランチャーは厳しく直面化する。すると「ランチャーはピアへの恋心をひた隠し、ばれないよう臆病でいる」と反論される。ファルハーンとラージュは「ランチャーがピアへ愛を告白すれば、父親へ写真家になりたいと伝え、信仰の指輪を捨てて面接へ行く」と宣言。その直後、一行は学長宅を訪れる。ランチャーはピアの枕元で愛を告白。ファルハーンはある写真家から助手としてのスカウトを受け、ラージュは就活の最終面接で内定を得て、3人は無事卒業となるが、首席卒業のランチャーだけは逃げるように式場を去る。それから十年間、ファルハーンとラージュは、ランチャーとの連絡が途絶えたまま。一大決心をして秀才チャトルを拉致しランチャー家へ訪れると、初めて出会うランチャーだった。その男は自らが本物のランチャーで、大学にいたのは庭師の息子だったと告白。途中でピアを拾い、ランチャーに教えられた場所に辿り着く。そこは湖の辺の創造的小学校で、生徒たちが自由気ままに珍妙な発明品で遊んでいた。大企業の副社長チャトルと天才発明家ランチャーとの契約場面が落ちとなっている。

全く乱調しない余裕のランチャー。本作の原題は「3 idiots」で三馬鹿。インソップ寓話は「自分より秀でた人を揶揄すると、知らぬ間にもっと大きな悲しみを引き寄せる」ことを諭した。大地が三度目に水を呑みこんで海がなくなったら船など無用の長物。宇宙船地球号は有限な閉鎖系だから持続可能性が問われている。それでも「きつとうまいく」と望みたい。



かゆ かわ ゆう へい  
粥川 裕平  
(精神科医・映画評論家)

名古屋工業大学 名誉教授  
かゆかわクリニック院長